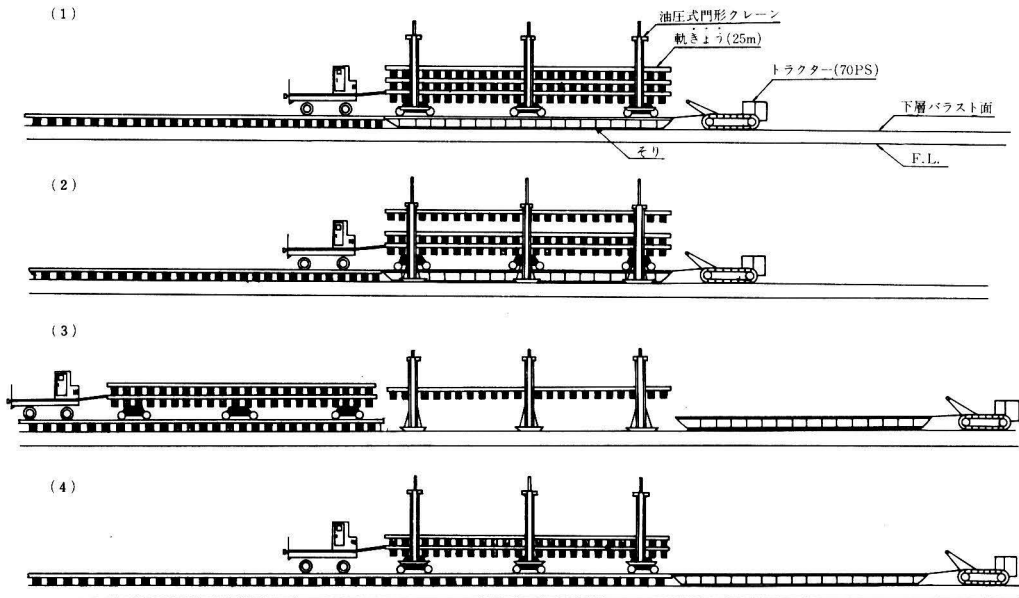


図-3 特殊門形クレーン工法



担車を軌道外に取りはずすことができる。作業順序は次のとおりである。

(1) 軌きょうの押込み 既設軌道の最前端にそりを連結しておき、担車上に3段積みした軌きょうを、モーターカー推進でそりの上に押し込む。このとき特殊門形クレーンは、最上段の軌きょうにつかまって脚を縮めた状態である。

(2) 軌きょうのつり上げ 門形クレーンの油圧シリンダーを伸ばすと、脚は下層バラスト上につき、さらに伸ばすと最上段の軌きょうはつり上げられる。担車に残った2段の軌きょうをモーターカーでバックさせ、そりをトラクターで1軌きょう長だけ前進させると、つり上げられた軌きょうは敷設できる状態となる。

(3) 軌きょう敷設 つり上げられていた軌きょうを、油圧シリンダーを伸ばして下層バラスト上に卸し、そりと連結する。担車上の軌きょうを、いま敷設した軌きょうの上に乗入れ、門形クレーンを上段の軌きょうにつかまらせて、次の敷設位置にあるそりの上に押し込む。以上を繰り返して3段積みになっていた軌きょうの敷設を終わる。なお、門形クレーンおよび小

表-1(a) 特殊門形クレーンの性能諸元

全幅	3,500 mm
全高	4,400 mm
容量	15t
揚程	1,800 mm
エンジン	4 PS ガソリンエンジン
昇降速度	約 2m/min
左右動	約 400mm
重量	約 1.9t

形トラクターの性能諸元を表-1(a, b)に示す。

4 軌きょう敷設車工法(図-4)

この工法は、既設軌道の上を自走してその終端付近に止まり、

表-1(b) トラクターの性能諸元

履帯中心間隔	1,160 mm	
履帯幅	330 mm	
全重量	5.7 ton	
機関	形式	4 サイクルディーゼル
	出力	70 PS/1,800 rpm
クレーン	容量	500 kg
	揚程	1,300 mm

表-2 軌きょう敷設車の性能諸元

巻上荷重	15t	
揚程	2.2m	
移動けた横行範囲	3.7m	
車体全長(回送時)	41.4m	
車体幅()	3.4m	
連結面間距離	11m	
自重	約 60t	
巻上速度	2.8m/min	
横行速度	30m/min	
走行速度	60m/min	
機関	シリンダー数	4
	内径×行程	100mm×130mm
総排気量	総排気量	6,126
	出力(10時間連続)	76.5 PS/1,800 rpm
発電機	出力	55 KVA
	電圧	220 V
	周波数	60 c/s

図-4 軌きょう敷設車工法

